

# 「反合・三里塚を闘う労働運動」の真価を 発揮しよう

## 年頭の決意

宣言、そしてただちにこれに込めての脱落派の「話し合いのけん入」表明と、闘う反対同盟・支援への卑劣な暴力的襲撃行為の激化という現地の急迫した事態こそ、彼ら権力と裏切り者の連合した凶暴な戦闘宣言なのです。

同時にわが国鉄においても最大の決戦情勢を迎え、全国の国鉄労働者は、怒りにもえ、決意を固めて、政府・国鉄当局、およびその手先「動労」本部「革マル」の一大決戦に入りつつあります。

反動中曽根が臨調Ⅱ行革の最大の目玉としてかけてきている国鉄労働運動解体攻撃は、日本労働運動の階級性を骨までしゃぶりつくして破壊し、労働者など虫けらのように切りすててやまぬという凶暴なものです。そしてここにも、三里塚闘争の脱落派に匹敵する動労「本部」革マルが、日帝・国鉄当局の悪らつな先兵となつています。

このような情勢下で、日本の戦闘的労働者・人民にとって八〇年代中期の階級情勢の命運を決するときがきたというのであり、迎えた八四年こそその突破口といえます。

私達動労千葉は、七九年分離独立以来、今年で五年目を迎えました。そしてこの八四年の決戦にふさわしい、「三里塚・国鉄を基軸に、反動中曽根と対決する」路線の正義と闘いの真価を発揮する時がいよいよ到来したのです。

三里塚闘争に敵対する一部脱落派を粉碎し、国鉄における動労「本部」革マルを打倒・一掃すること、この歴史的闘いの中にこそ日本労働者・人民の勝利と未来があるということを確信しようではありませんか。その決意を、国鉄反合・三里塚二期決戦勝利へ、とりわけ「ろ・25三里塚」空前の根こそぎ総決起として実現していこうではありませんか。

最後に、皆さんからの御意見をどしどしいただき、よりよい紙面への飛躍をかけて、日々発行しつづけるよう旧来にも増して奮闘する決意を明らかにして、『日刊 動労千葉』編集委員会からの御あいさつといたします。

一九八四年 一月

「日刊 動労千葉」編集委員会  
（代表） 教宣部長 片岡一博



三里塚を闘う全国の仲間とともに。5.22三里塚闘争総括集会。(1983.5.22)

一九八四年の年頭にあたって、動労千葉千三百の組合員の皆さん、そして、『日刊 動労千葉』を愛読される全国の仲間の皆さんに、編集委員会を代表して新年の闘う決意とごあいさつを申し上げます。

すぐる八三年の一年間は、世界の反動・レーガンと中曽根による凶暴で絶望的なあがきの中で、文字通り全世界が戦争という情勢につき進んだということ、これほど身近に、これほど肌身で感じたことはなかったと思います。

昨年、中曽根が発した「戦後政治の総決算」という攻撃の中にすべての反動が集約されているといつても決して過言ではありません。それは体制的危機にたつ日本支配者階級の破綻と崩壊と居直りの宣言であります。だからこそ、絶望的な危機感が凶暴な攻撃となつてエスカレートしてきています。

しかし、われわれ労働者・人民は、これに決して屈するものではないし、怒りをいよいよ倍化させ決意も固く支配者共を追い詰め、必ずや実力打倒するため力強く前進しています。昨年から年末にかけての情勢と闘いの高揚―三里塚・国鉄反合・レーガン阻止・総選挙、等々―は、くつきりと、その力強い前進をさし示しています。

この中曽根の凶暴な攻撃と真向から対決している闘いの頂点こそ三里塚闘争です。

三里塚闘争は十八年間の闘いを通して最大の正念場・決戦を迎えました。それは、まず何よりも日帝・中曽根が全体重をかけて攻撃をかけてきていること、そして第二に、この攻撃に屈服し、三里塚闘争十八年の闘いの原点を裏切り、条件派への変質・逃亡に走った一部脱落派との一個二重の闘いに突入していることの中に示されています。八三年十一月の千葉県知事沼田―運輸相長谷川の「二期早期着工」「反対同盟解体」